

# YASUI

ARCHITECTS  
& ENGINEERS, INC.

# UrbanDesignWorks

街とともに成長する。



©ガンバ大阪





多くの人の協力や熱意によって出来上がったスタジアム。プロジェクトに参画した方々にお話をうかがいました。(文・栗山純子)

# Voice of person in charge

課題山積の中、関係者一丸となり邁進したスタジアム建設ですが、最後まであきらめず頑張れたのは、募金活動を通しサポーターの皆さんと直接お会いし、「コミュニケーションを深めることができたからだ」と思っています。チームが負け続けていた頃、「募金活動なんかしているから試合に集中できないんやーそんなことしてる場合ちやうやろー」と叱咤され、選手も奮起。一方で、お約束的な「かけあい」も生まれました。募金の集まり具合でスタジアムの屋根設置が危うい頃、こちらの「屋根がないと……」という掛け声に、「やぐね（屋根）」とサポーターが応えてくれるんです。

他にも、小さな子供が大切な貯金箱を握りしめてきてくれたり……多くの人に支えられていることを実感しました。募金でスタジアムをつくられたことによる最大の収穫は、多くの人々の想いがつまった特別な場をつくることのできたことです。子供から大人まで参加し、「自分でつくれたスタジアムなんだ！」と語り続ける。サッカーに関わる人の裾野を広げることができ、そんなスタジアムになりました。今後は、海外のスタジアムのように、試合がないときも自然と人が集う、街のシンボルのような場になっていきます。

## 人々の想いがつまった街のシンボルへ



株式会社ガンバ大阪 事業部  
スタジアム指定管理 主任 本間智美さん

募金でスタジアムを建設するという異例のプロジェクト。そんなスタジアムの建設構想時からの担当者であり、現在も施設運営に携っている本間さん。

## 自分だけの特等席を探してほしい



株式会社竹中工務店 大阪本店設計部  
設計第4部長 大平滋彦さん(右)  
設計第4部門 設計グループ副部長 浜谷朋之さん(左)

中学から大学までサッカー部、根っからのサッカー好きの大平さん。プロジェクトをきっかけにサッカー好きになった？浜谷さん。

お気に入りの席は？  
大平：スタジアムに通う度に新しい発見があり、一番を探しているところです。ピッチの見え方を意識し設計しましたが、実際に観戦すると、視界に入ってくるピッチと観客席の見え方がおもしろいです。  
臨場感たっぷりの席は、メインスタンドの入口上の3段目。ピッチが見渡せ、選手同士があたる音や息遣いがリアルに聞こえてきます。  
浜谷：アウェイ側ゴール裏のセンターシートもお勧めです。ホームサポーターの応援を正面から見るのができて、なかなか迫力があっていいですよ。

街からスタジアムを見る  
おすすめのポイントは？  
モノレールの車窓です。まるで森の中に浮かんでいるように見えるスタジアム。見る角度により変わるスタジアムの表情。スタジアムの屋根はシルバーの金属でできているので、光の反射で色見え方が刻々と変わります。  
プロポーザルの提案は、白い屋根でしたが、シルバーにして正解でした。



予算との戦い  
生まれたデザイン  
通常の計画では考えられないほど多様な減額案を検討しましたが、最大の切り札は屋外の鉄骨階段です。「安っぽさ」が最後まで議論になりましたが、「サポーターの気持ちを考えて」と、内部にお金を使うべきだ」と、鉄骨階段を採用。結果、幅約14mという前例ない鉄骨の大階段ができました。ギネスに登録しようかと盛り上げています。  
低予算が逆にプラスになり、様々な部分でデザインが研ぎ澄まされ、今のデザインにつながったと思っています。

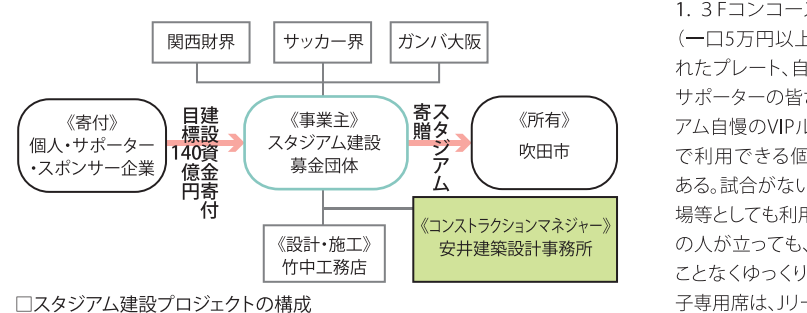


ヨーロッパスタイルのスタジアムをつくる  
私たちは、発注者（このときはまだガンバ大阪）とともに、国内外のスタジアムを実際に見に行き、スタジアムの基本的な考え方、必要諸室の仕様や機能、ピッチと観客席との関係など、どんなスタジアムをつくりたいのかを整理し、設計施工を担当する建設会社へ提示した。プロポーザルでは各社とも相当に熱のこもった提案が出された中で、竹中工務店が選ばれた。

「さあ募金開始！着工！」となつて、敷地の地下に旧日本軍の弾薬庫跡が見つかり工程の調整が余儀なくされる、東日本大震災が起き建設環境が大きく変化する、ガンバ大阪がJ2に降格し募金が伸び悩む……様々な事件が起こった。

「あとこれだけで大屋根がつきます！」もう少しで大型ビジョンも2基できます！「選手やスタッフも街頭に出て懸命の募金活動が続く、当初は実装3万2千の観客席が募金団体の理事会の勢いある会議で4万席となるなど様々な曲折を経て、最終的には700社を超える法人と3万4千人を超える個人からの寄附があり、国等の補助金も含め140億円を超える金額が集まってフルスペックのスタジアムが2015年秋に完成した。

街の誇り  
関西の元気  
選手の筋肉までも見える臨場感ある観客席。サポーターの大声援が響く大屋根、青に染まるスタジアム、寄附した人が自分の名前が刻まれたプレートを見つけて誇らしげに微笑む姿。大阪をホームとするスタジアム建設募金団体、ガンバ大阪、竹中工務店、安井建築設計事務所の民間チームが知恵を結集し、関西経済連合会やサッカー

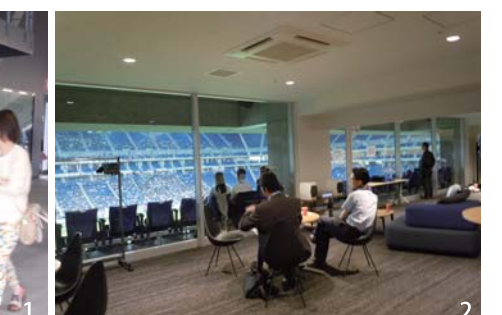


## 市立吹田サッカースタジアム

所在地：大阪府吹田市千里万博公園3-3  
用途：観覧場  
建築主：スタジアム建設募金団体  
所有者：吹田市  
運営（指定管理）：ガンバ大阪  
設計施工：竹中工務店  
コンストラクションマネジメント：安井建築設計事務所  
事業費：約140億円（法人約99億、個人約6億、助成金約35億円）



「あとこれだけで大屋根がつきます！」もう少しで大型ビジョンも2基できます！「選手やスタッフも街頭に出て懸命の募金活動が続く、当初は実装3万2千の観客席が募金団体の理事会の勢いある会議で4万席となるなど様々な曲折を経て、最終的には700社を超える法人と3万4千人を超える個人からの寄附があり、国等の補助金も含め140億円を超える金額が集まってフルスペックのスタジアムが2015年秋に完成した。



www2.gamba-osaka.net/stadium

敷地面積：90,065.33㎡  
延床面積：63,908.71㎡  
構造：鉄筋コンクリート造  
プレキャストコンクリート造 鉄骨造  
規模：地上6階 塔屋1階  
収容人数：40,000人  
竣工：2015年9月

# ライフスタイル デザイン研究所

## 今年度の活動内容

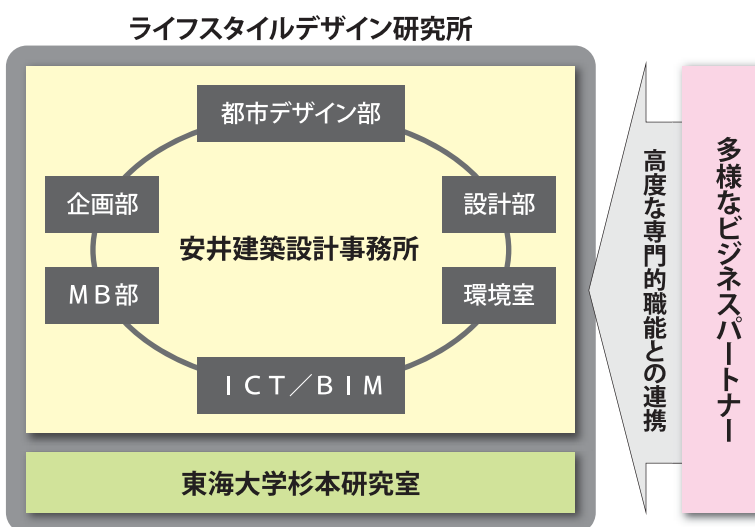
2016年度は、昨年度に引き続き、東海大学杉本研究室と共に、PRE（公的不動産）の活用についての研究や勉強を行っています。社内体制は、これまでのような都市デザイン部・設計部・企画部だけでなく、マネジメントビジネス（MB）部、ICT/BIMデザイン

センター等との連携を深めると共に、単なるPREの研究や勉強にとどまらない新ビジネスの提案に結びつけるべく活動します。なお、必要に応じて高度な専門的職能を有する多様なビジネスパートナーと連携を考えます。研究・勉強にあたっては、公共施設の更新の動きがある首都圏の三つの地区を選定して、PRE

活用についてのケーススタディを行います。年度内に、適切な導入機能、土地利用計画、実現に向けた事業スキーム等を自治体に提案する予定です。5月27日に東海大学杉本研究室及びビジネスパートナーを招き、スタートアップ会議を開催しました。（文・高桑雅史）



5月27日開催のスタートアップ会議



## 話題の

# まちネタ

スタッフがまちを歩いて気になるネタをご紹介します

調査No. 2  
まち調査人  
須藤裕行

あれから15年…

野鳥もくらす街  
埼玉県川口市をうろつく



## 日本一汚い川があった街

2015年10月に、川口市庁舎建替えのプロポーザルがあり、15年ぶりに川口市役所の周辺をウロウロしました。平成7年度から12年度の5年間で、地下鉄埼玉高速鉄道の開通とともに川口市庁舎の近傍に新駅が開設されるということで、その新駅周辺の土地利用計画を策定する調査を行いました。

川口は、鋳物産業の街です。昭和39年の東京オリンピックの聖火台は川口の鋳物でした。また、子供の頃に遊んだベーゴマも川口の鋳物です。そして、吉永小百合主演の「キューポラのある街」のロケ地も川口。市内を南北に流れる芝川や鋳物工場のキューポラが当時注目されたようです。また、川口は東京都と荒川を隔てただけの立地であるため、生活圏は東京都であり、市民が埼玉都民と称されることでも有名です。

私が初めて訪れた20年前の芝川は、鋳物工場等の排水が直接流れ込み、ヘドロが溜まり、水の流れがなく、川に近づくと異臭がする、日本一汚い川でした。当時の芝川再生の検討項目としては、①埼玉高速鉄道のシールドを活用して芝川下流にある荒川の水をポンプアップし、上流から水を流して川の流れを取り戻す②川への工場等の直接排水をなくすため、下水環境を見直す③コンクリート護岸ではなく、緑豊かで歩ける親水空間を整備する、といったことでした。

現在、芝川は流れを取り戻し、工場からの排水はなくなり、緑豊かな護岸とともに親水性のある散策路が整備されました。再生された芝川には、マガモやアオサギなど水鳥が棲息し、水が綺麗で小魚が居ないと棲みつかないカワセミも棲息するようになりまし

た…20年前には考えられなかったことです。15年かけて駅前広場・公園・道路が整備され、工場地区が高層マンションなどの都市的な街に変貌を遂げていたことに感慨深いものがありました。しかし、芝川の遊歩道を歩いていて、カワセミの鳴き声を聞き、この目で見たい時は、道路や建物が整備されたことよりも強い感動を覚えました。もしかして、本当の都市計画ってこういうことではないかと感じました。「20年先を見て、人と自然が交わり、人も動植物も棲みやすい、そんな空間を創っていく」のが都市計画ではないかと…。



## 東京 event 平河町ミュージックス 2016秋季公演

<https://sites.google.com/site/hirakawachomusics>

地域との連携や活性化、音楽文化の醸成を目的に開催するコンサート「平河町ミュージックス」。秋季公演の開催日が決まりました。(当社も運営に参加しています)

会場: インテリアショップ・ロゴバ  
(東京都千代田区平河町1-3-14 安井平河町ビル1F)  
※各回とも、開場18時、開演19時  
参加費: 各回2,500円(ドリンク付)  
問合せ: 03-3221-8811 (ロゴバ)  
主催: 平河町ミュージックス実行委員会



第40回 9月1日(木)  
「ソウルのチェリストたち」  
Seoul Solist Cello Ensemble  
ソウルを拠点に活動するチェロアンサンブル



第41回 11月18日(金)  
「豎琴あそび〜おとでつむぐ物語」  
片岡詩乃 & 鈴木明子  
2人のハーピストが様々なハーブを駆使し多様な世界をお届け



第42回 12月9日(金)  
「バッハとシュニトケ、冬の夜」  
楠本由紀(piano) & 荒井英治(violin)  
凄腕の二人による切れ味のよい演奏が楽しめる

## 大阪 event 北大江たそがれコンサートWeek 2016

10月9日(日)~15日(土) 開催

詳細は、たそこんオフィシャルサイト  
(<http://kitaoe.jp>) をご確認ください。

当社大阪事務所がある北大江(大阪市中央区)の街が音楽につつまれる秋の恒例イベント。通称『たそこん』。公園やエリアにあるお店等を会場にコンサートやワークショップ等が楽しめます。恒例の北大江公園野外コンサートは15日(土) 15:30から開催です。地元の子供たちも出演予定です。お楽しみに!



## 富山 event 全国まちづくり会議

10月15日(土) 16日(日) 開催

12回目となる今年のテーマは、「伝統と創造のまちづくり」。富山県高岡市で開催されます。全国からまちづくりに関係する団体や支援する企業が集い、それぞれの工夫や悩みを語り合い、交流の輪を拡げていくイベント。当社も参加予定です。

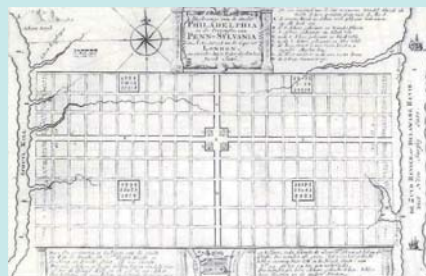
会場: 高岡市生涯学習センター(富山県高岡市末広町)  
主催: 日本都市計画家協会

## award アメリカ建築家協会 名誉フェロー会員称号授与式

去る5月、アメリカ建築家協会(AIA: American Institute of Architects) 大会がアメリカ・フィラデルフィアで開催され、このなかでフェロー会員称号の授与式がペンシルベニア大学でおこなわれました。今年はこちらで9名の名誉フェロー会員(※)が選ばれ、その一人として、当社社長の佐野が称号を授与されました。

フィラデルフィアは、1682年アメリカ初の本格的な方格状の街路が計画された街、アメリカ都市計画の聖地と言えます。以降様々な開発が行われましたが、今も当時の計画が街の骨格となっています。そして、もう一つの意味で重要な聖地でもあります。それは、アメリカ史上最も重要な独立宣言と合衆国憲法が採択された街であるということ。アメリカの原点を語る街です。

※建築や社会の発展に貢献した建築家(米国籍・米在住以外)に贈られる称号



フィラデルフィア都市計画図\_1682年  
(出典:「アメリカ建築案内」工業調査会)

そんな歴史ある街での授賞式を終えて、佐野のコメントです。

「フィラデルフィアという街の名前は兄弟愛という意味があり、ここには壮大な“志”がこめられています。授与式では、同時選定のチリやノルウェーの建築家と隣り合わせ、彼らがそれぞれの国で建築をきちんとつくりあげ、社会的責任を誠実に果たしてきた姿勢に触れることができました。彼らと“志”を共有できたことはなんと有意義で光栄なことだろう。

## 授与式のご報告

佐野が行ってまいりました!



言うまでもなくフェローは現役であり続けなければならないので、ひととき重みを持つフィラデルフィアでこの称号を受けたことで、あらためて背中を押される思いがしました。」